

第二部

現代の口訣の構築

「黄連解毒湯」と「六君子湯」の口訣を考える

木村 第2部では、日常診療で頻用される黄連解毒湯と六君子湯の2処方を取り上げ、各診療科における活用例をとおして処方の本質を浮き彫りにし、“現代の口訣”を導き出したいと思います。

黄連解毒湯の口訣を考える

木村 黄連解毒湯は、黄連、黄芩、黄柏、山梔子といずれも性味が「苦」「寒」の生薬で構成されています。効能・効果は、「比較的体力があり、のぼせがみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症：鼻出血、高血圧、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、湿疹・皮膚炎、皮膚瘙癢症」です。

原典の『外台秘要方』には、「前軍督護劉車なる者、時疾を得て三日、已に汗して解す。酒を飲むに困りて、復た劇しく苦しみ、煩悶、乾嘔、口燥、呻吟、錯誤して臥するを

得ず。余、思いてこの黄連解毒湯の方を作る。(中略)これ、熱毒を直解し、酷熱を除く。必ずしも酒を飲んで劇しき者にはあらず」と記されています。また、香月牛山は『牛山方考』において「この方は実熱実火を治す通用の劑なり」と述べています。このように黄連解毒湯は“実熱実火による症状に広く用いられる清熱薬”ということが特徴として挙げられます。

長沢道寿は『医方口訣集』で「三焦の実火を瀉す」として、気虚がある場合は四君子湯、血病(瘀血)がある場合は四物湯(温清飲)、痰(水毒)がある場合は二陳湯を合方するような使い方を述べています(図1)。

●アトピー性皮膚炎に黄連解毒湯が有効であった症例

木村 皮膚症状に黄連解毒湯が有効であった症例を芝木先生に紹介していただきます。

芝木 症例は44歳の男性で、主訴はほぼ全身の痒みを伴

図1 黄連解毒湯

構成生薬

黄連、黄芩、黄柏、山梔子(性味：苦寒)

効能・効果

比較的体力があり、のぼせがみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症：鼻出血、高血圧、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、湿疹・皮膚炎、皮膚瘙癢症

原典「外台秘要方」

「前軍督護劉車なる者、時疾を得て三日、已に汗して解す。酒を飲むに困りて、復た劇しく苦しみ、煩悶、乾嘔、口燥、呻吟、錯誤して臥するを得ず。余、思いてこの黄連解毒湯の方を作る。(中略)これ、熱毒を直解し、酷熱を除く。必ずしも酒を飲んで劇しき者にはあらず」

香月牛山「牛山方考」

「この方は実熱実火を治す通用の劑なり」

実熱実火による症状に用いる清熱薬

長沢道寿「医方口訣集」

「三焦の実火を瀉す」

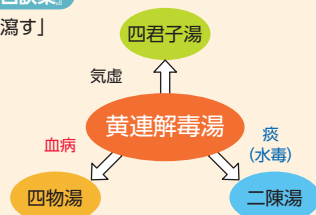


図2 アトピー性皮膚炎に黄連解毒湯が有効であった症例(44歳 男性)

現病歴

- 小学生の時にアトピー性皮膚炎と診断された。
- X-2年9月、当院初診。抗ヒスタミン薬内服、ステロイド軟膏、タクロリムス軟膏による治療では症状のコントロールは不良。
- X年6月の受診時に体の痒みと顔のほてりの増悪を訴えた。

所見/東洋医学的所見

- 身長 175cm、体重 68kg、BMI 22.2
- 顔面は紅潮し、掻破痕を伴う。体幹、四肢に広範囲に紅斑、鱗屑、苔癬化を認める。浸出液は伴わない。
- 舌診：舌質は淡紅色、微白苔。
- 脈診：浮、数、やや強。
- 腹診：腹力は4/5、胸脇苦満なし、腹直筋緊張なし、腹部動悸を触れない。

自覚症状

顔がほてる。夜温まると全身が痒い。冷やすと痒みは楽になるが眠れなくなる。暑がりだが汗は普通。口渇はなし。排便1日1行。痒みでイライラすることがある。

現病歴

- X年6月：従来の治療は変更せず、黄連解毒湯エキス満量(分3)を追加。
- X年7月：痒みが落ち着き、顔の紅潮、ほてり感が改善していたので、有効と判断し黄連解毒湯を継続。
- X年8月：黄連解毒湯だけで痒みが落ち着いているとのことで、抗ヒスタミン薬の内服を中止。
- X年10月：黄連解毒湯エキス2/3量(分2)に減量し、経過良好。



う皮疹です(図2)。小学生の時にアトピー性皮膚炎と診断されています。当院にて抗ヒスタミン薬内服、ステロイド軟膏、タクロリムス軟膏の処方経過を観察していましたが、症状のコントロールは不良でした。X年6月の受診時に体の痒みと顔のほてりが増悪したとのことで黄連解毒湯エキス満量(分3)を追加しました。同年8月には黄連解毒湯だけで痒みが落ち着いているとのことで、抗ヒスタミン薬の内服を中止、10月には黄連解毒湯エキス2/3量(分2)に減量し経過良好でした。

黄連解毒湯は皮膚科領域では、裏熱実証で清熱と同時に体内の湿を乾かすことを目標に用います。鑑別処方に白虎加人参湯、温清飲、消風散が挙げられます。白虎加人参湯は多汗、口渴、熱(ほてり)が目標で、津液が不足した状態の時に清熱し滋潤します。温清飲は、熱+血虚(皮膚乾燥、顔色不良、爪・毛髪の異常など)がある場合に用います。消風散は内熱があり、痒み強い皮膚疾患で湿潤・痂皮を伴う場合、夏に悪化する皮膚疾患や蕁麻疹などに用います。

木村 黄連解毒湯を服用することで、睡眠状態はどのようになりましたか。

芝木 睡眠状態も非常によくなりました。黄連解毒湯の清熱作用が精神の安定にも寄与したのではないかと考えています。

木村 白虎加人参湯との鑑別について、皮膚の赤みの違いや口渴の有無などについて教えてください。

芝木 より赤みや熱感が強い場合には黄連解毒湯を用います。また、口渴の有無も白虎加人参湯との鑑別には重要と考えています。

● 炎症性ケロイド、顔面紅潮・顔面痤疮に対して黄連解毒湯が有効であった症例

木村 皮膚症状について金先生から2症例を紹介させていただきます。

金 症例1は28歳の女性です。もともとケロイド体質で、以前から胸部にケロイドを認め、来院時も赤みが強い炎症性のケロイドが見られました。実熱証とみて清熱の目的で黄連解毒湯4.0g/日(朝夕2回)の服用を開始したところ、約3ヵ月の服用でケロイドの消失はないものの、皮膚の赤みとそれに伴う痛みなどの不快感が改善しました(図3)。

図3 婦人科領域における黄連解毒湯の応用例

症例1 炎症性ケロイド(28歳 女性)

自覚症状

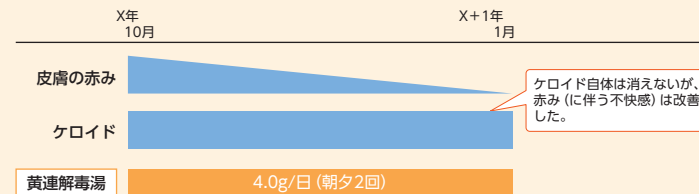
- もともとケロイド体質で、以前から胸部にケロイドがあった。
- 来院時も赤みが強い炎症性ケロイドが見られた。

所見/東洋医学的所見

- 身長 156cm、体重 58kg
- 脈診：弦。
- 体格・身体所見：特記すべきことなし。
- 舌診：舌尖紅、薄黄。

処方/臨床経過

実熱証に対し、清熱の目的で黄連解毒湯4.0g/日(朝夕2回)による治療を開始した。



症例2 顔面紅潮、顔面痤疮(20歳 女性)

自覚症状

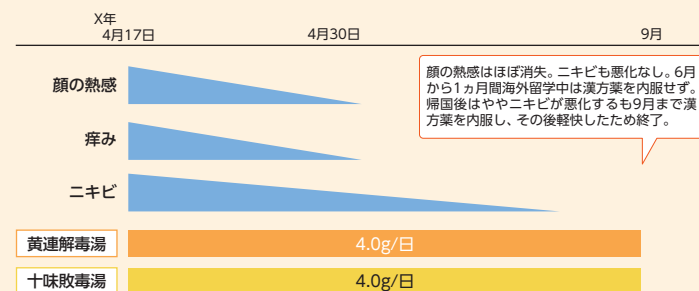
- 顔面紅潮があり、特に月経後に顔面の肌が腫れて痒くなる。
- ニキビもできやすい。
- 特に日中は顔が熱くなり痒みもある。

所見/東洋医学的所見

- 身長 156cm、体重 49kg
- 舌診：舌尖紅、薄黄、黄膩苔。
- 脈診：弦。

処方/臨床経過

陽熱亢進による顔面紅潮、血熱とみて、黄連解毒湯4.0g/日と十味敗毒湯4.0g/日による治療を開始した。



第二部



症例2は20歳の女性です。顔面紅潮があり、特に月経後に顔面の肌が腫れて痒くなる、ニキビもできやすいとのことで、特に日中は顔が赤くなり、痒みもありました。陽熱亢進による顔面紅潮・血熱とみて黄連解毒湯4.0g/日と十味敗毒湯4.0g/日を処方したところ、約2週間で顔の熱感ほぼ消失し、ニキビの悪化もなく、痒みもそれに伴い改善しました。1ヵ月間の海外留学中は休薬していましたが、帰国後はややニキビが悪化するものの、その後は症状が軽快したため終了しました(図3)。

症例1では赤みの強いケロイドに対して炎症所見である赤みの改善を、症例2では顔の熱感、赤み、ニキビの改善を認めました。黄連解毒湯は清熱解毒の代表処方として炎症性皮膚疾患に有用です。

木村 症例2で十味敗毒湯を併用された理由を教えてください。

金 顔の赤みだけなら黄連解毒湯でよいのですが、本症例はニキビも合併していたので十味敗毒湯も併用しました。

●舌痛に対し黄連解毒湯が有効であった症例

木村 口腔内の所見に黄連解毒湯が有効であった症例を松本先生にご紹介いただきます。

松本 症例は67歳の女性で、主訴は舌痛、口腔内違和感、耳鳴り、不眠です。

以前より高血圧の治療で当院を通院中です。X年9月の来院時、不眠・耳鳴りの症状とともに「最近、口の中がベタッとした感じがし、舌が痛くて治らない」との訴えがありました。のぼせ気味でイライラした傾向がみられ、さらに家庭内でのストレスを訴えられました。内熱の顕著な症例と考え、自律神経の興奮や脳の充血を緩解し、炎症等の症状を鎮める作用・清熱を期待し、黄連解毒湯5.0g/日を処方したところ、症状は比較的速やかに改善しました(図4)。

本症例は舌痛が主訴ではあるものの多大なス

トレスを感じていたことから、興奮を鎮め精神を安定させる効果も必要と考えました。黄連解毒湯は清熱瀉火の効能を有し、脳の充血や自律神経系の興奮を消散させ、イライラを含めた神経過敏症状や口腔内の違和感・痛み等の症状改善に有効と考えました。

木村 黄連解毒湯の服用で、精神症状にはどのような変化がありましたか。

松本 本症例は普段は非常に穏やかな方ですが、実熱により人柄が変わったようにイライラ等の精神症状を認めていました。黄連解毒湯の服用で比較的速やかに精神症状の改善を認め、舌痛や身体症状もそれに伴い改善を認めました。

木村 舌痛症には、黄連解毒湯のほかどのような処方を使用されますか。

図4 舌痛に対し黄連解毒湯が有効であった症例(67歳 女性)

主訴

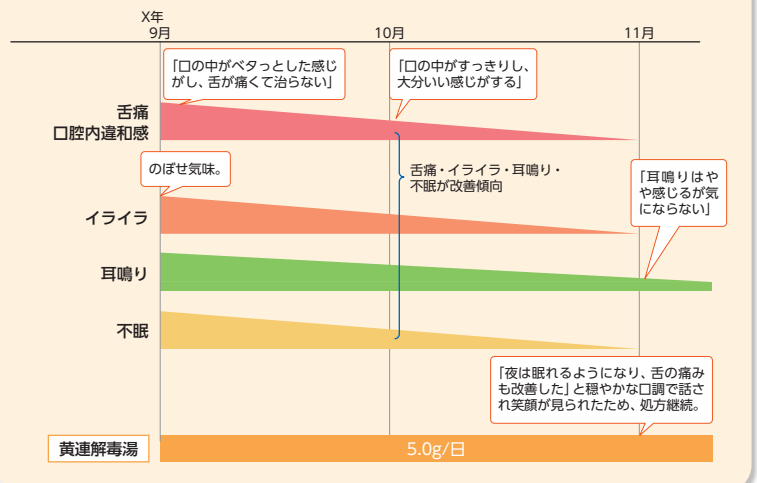
舌痛、口腔内違和感、耳鳴り、不眠。

所見/東洋医学的所見

- 身長 147.4cm、体重 55.6kg
- 脈診：浮脈、やや早め。
- 中肉中背、やや赤ら顔。
- 舌診：やや厚く、紅色・黄苔あり。(口内炎、潰瘍、出血等はなし)
- 興奮気味で早口。
- 皮膚乾燥(+)
- 腹診：腹力中等度、心下痞硬。
- 下咽頭に閉塞感あり。

処方/治療経過

内熱の顕著な症例と考え、自律神経の興奮や脳の充血を緩解し、炎症等の症状を鎮める作用・清熱を期待し、黄連解毒湯エキス製剤5.0g/日を処方した。





松本 肝脾血虚の駆瘀血作用や鎮静作用を有する加味逍遙散が有効な症例も多くあります。

●耳鼻咽喉科領域における黄連解毒湯の応用例

木村 新型コロナウイルス感染症による咽頭痛の症例と花粉症の症例を柿添先生にご紹介いただきます。

柿添 症例1は45歳の男性で、頭痛、倦怠感、胃の痛みがあり、当院の発熱外来を受診され、新型コロナウイルス抗原検査陽性でCOVID-19と診断しました。

受診当日(7月22日)は、症状は頭痛・倦怠感が主だったため、柴胡桂枝湯18T/日(分3)を5日分処方しましたが、3日後(7月25日)の電話再診にて強い咽頭痛の訴えがあったため、小柴胡湯加桔梗石膏7.5g/日(分3)に変方しました。さらにその2日後(7月27日)の受診の際に、咽頭痛が続き嚥下時痛が強いとの訴えがあり、局所の熱性が強いと考え黄連解毒湯6c/日(分3)を追加処方したところ、3日後の電話再診時に咽頭痛の軽減を確認しました(図5)。

本症例のほかにも黄連解毒湯の追加処方で咽頭痛を改善した症例を経験していますが、いずれも赤ら顔、血圧は高値傾向、せっかちでイライラしやすいタイプでした。

急・慢性咽喉頭炎、急・慢性扁桃腺炎の治療に用いられる基本処方、甘草湯<桔梗湯<桔梗石膏<小柴胡湯加桔梗石膏の順で消炎効果が強いとされています。小柴胡湯加桔梗石膏は一般的には炎症が強く膿栓を認める扁桃炎に用いますが、本症例のように熱旺盛による咽頭痛には黄連解毒湯との併用がよいとされています。

症例2は、黄連解毒湯で花粉症のコントロールができた58歳の男性です。前立腺肥大症を合併しています。X年1月から花粉症の初期治療を行っていましたが、3月に花粉症症状の増悪にて受診されました。レボセチリジン塩酸塩や点眼薬、ステロイド剤の頓用に加え、前立腺肥大症の合併で麻黄剤が使用できないため黄連解毒湯を処方したところ、翌日から症状が改善しました。

X+1年2月に花粉症で受診、鼻閉と顔が痒いと訴えがあり、本人の希望で黄連解毒湯を2週間分処方しました。花粉

飛散量が増大した3月初旬に症状の増悪で受診され、前年と同様に抗アレルギー剤、点眼薬と黄連解毒湯を処方しました。2週間後の受診時には、黄連解毒湯のみを追加処方しました(図5)。花粉症で皮膚粘膜の発赤が出やすいタイ

図5 耳鼻咽喉科領域における黄連解毒湯の応用例

症例1 新型コロナウイルス感染症による咽頭炎、咽頭潰瘍(45歳 男性)

現病歴

X年7月20日に発熱、頭痛、倦怠感、胃の痛みがあり、7月22日に当院発熱外来を受診。新型コロナウイルス抗原検査陽性でCOVID-19と診断した。

所見/東洋医学的所見

- 体温 37.4℃、SpO₂ 97%
- 咽頭軽度発赤、粘性鼻汁、呼吸音正常、軽度発汗、関節痛、軽度嘔気。
- 脈診：浮。
- 舌診：黄白苔、辺縁紅。
- 腹診(駐車場での診察)：心下痞あり。
- 軽度自汗あり。

処方/臨床経過

- 7月22日：頭痛・倦怠感が主。柴胡桂枝湯 18T/日(分3)×5日分処方。
- 7月25日：咽頭痛が強く、小柴胡湯加桔梗石膏7.5g/日(分3)×5日分処方。
- 7月27日：咽頭痛がとれない、嚥下時痛が強い。体温 37.4℃。咽頭全体発赤、前後口蓋弓発赤腫脹浮腫、右咽頭側索に潰瘍あり、喉頭浮腫なし、鼻腔粘膜の発赤腫脹。
視診：顔面紅潮。
脈診：浮 局所の熱性が強いと考え、黄連解毒湯 6C(分3)×3日分を追加処方。
→ 3日後の電話再診時に、咽頭痛の軽減を確認。

症例2 花粉症(58歳 男性)

現病歴

- X年1月下旬：花粉症の初期治療目的にピラスチンの処方希望で受診。
- X年3月：花粉症の症状増悪にて来院、眼球結膜発赤、鼻粘膜発赤腫脹、顔面発赤鼻周囲発赤腫脹、鼻入口部発赤腫脹、頭重感あり。

所見/東洋医学的所見

- 身長 165cm、体重 62kg
- 舌診：発赤、薄黄苔、齒痕なし。
- 腹診：心下痞なし、腹直筋緊張なし、胸脇苦満なし。
- 顔面紅潮、湿疹あり。

処方/臨床経過

- レボセチリジン塩酸塩、点眼薬、ステロイド剤頓用、黄連解毒湯を処方。翌日から症状改善。
- 4月：黄連解毒湯のみ2週間分の追加処方を希望。
- X+1年2月：花粉症で受診、鼻閉と顔の痒みあり、黄連解毒湯を処方。
- 3月：花粉飛散量が多くなった時期に受診できず、症状増悪にて受診、前年同様に抗ヒスタミン薬、点眼薬と黄連解毒湯を処方。
- 2週間後：前回受診後2日目から症状が改善、漢方薬のみの内服でさほど困らず過ごせると、黄連解毒湯のみを追加希望。

第二部

プの患者さんには、清熱作用のある黄連解毒湯は有用であると思われます。

黄連解毒湯は、実証でのぼせて赤ら顔で、イライラして落ち着かず、舌は紅く、心窩部に抵抗が感じられるようなものに用いるとされていますが、栗山一道先生は「皮膚粘膜の強い発赤、腫脹、疼痛には全体の虚実に関わらず黄連解毒湯」と述べておられ、局所の炎症を実熱ととらえ、数日～1週間以内であれば黄連解毒湯の使用が可能であると考えています。

木村 黄連解毒湯は比較的短期間で効果があるということでしょうか。

柿添 黄連解毒湯は切れ味もよく、服用の翌日から効果が現れる方が多い印象です。

木村 冷え性の方でも局所の炎症が強い場合は投与期間に注意しながら使用できるということですか。

柿添 局所の熱がある方には短期間使用しますが、胃腸障害などの有害事象の経験はありません。

●オピオイド中止後の退薬症状に対し 黄連解毒湯が有効であった症例

木村 黄連解毒湯は上半身の熱症状に使用されることが多い処方ですが、手足の症状に有効であった症例を池田先生にご紹介いたします。

池田 症例は73歳の男性で、主訴は手指振戦、イライラ感、不眠、左下腰痛です。

X-4年に肛門がんに対し直腸離断術を施行され、以降は化学療法を継続されています。X年6月に左下腰痛が出現し、がん性疼痛の診断にてオピオイド(ヒドロモルフォン塩酸塩)内服が開始になりましたが、同薬を36mg/日(経口モルヒネ塩酸塩換算180mg/日)まで増量されても痛みの改善がなかったため、X年12月に当科初診となりました。

当科初診の3日前より主治医の処方薬が処方切れとなっていたことから、オピオイドの突然の中止による退薬症状と診断し、少量のオピオイドと降圧薬の内服を再開しましたが、手指振戦やイライラ感、不眠の改善はなく、東洋医学的診断より心火亢盛と考えて黄連解毒湯7.5g/日(分3)を開始しました。2週後には手指振戦、イライラ感は改善しましたが、不眠は改善傾向

にあるものの残存していたため、大苦大寒の剤であり脾胃を傷つけやすい黄連解毒湯を連用せず、柴胡加竜骨牡蛎湯7.5g/日に処方したところ、不眠も改善しました。下肢痛は、腰部脊柱管狭窄症が原因と判明したため、腰部硬膜外ブロックの施行で症状は改善しました。10週後には症状が消失したため、柴胡加竜骨牡蛎湯も廃薬としました(図6)。

黄連解毒湯証では実熱の火毒が上中下の三焦に充満し、心火、肝火が旺盛となりイライラ感、のぼせ、落ち着かない等の症候を呈します。本症例では突然のオピオイド中止により退薬症状を発症し、急激な実熱を生じてイライラ感や不眠、落ち着かない等の症状を呈したと考えました。

木村 先生の症例も黄連解毒湯は短期間の投与で効果があるという印象でした。

池田 ご指摘のとおり、黄連解毒湯は切れ味がよいと思われました。ただ、がん患者さんは非常に消耗しやすいので、症状が改善したらすぐに中止しています。

図6 オピオイド中止後の退薬症状に対し 黄連解毒湯が有効であった症例 (73歳 男性)

主訴

手指振戦、イライラ感、不眠、左下腰痛。

当科初診時現症

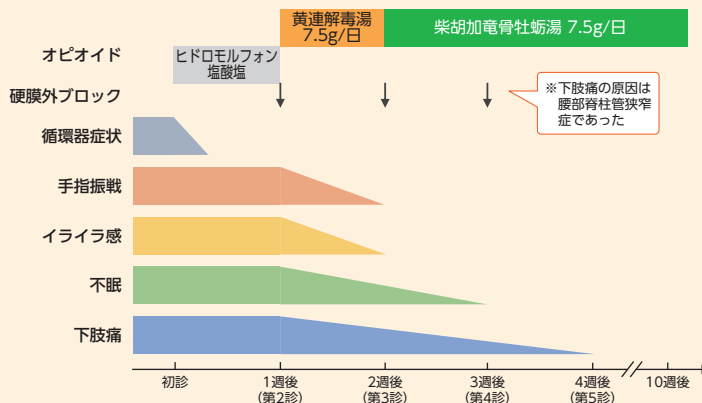
- 意識清明、血圧 177/100mmHg、脈拍 100回/分。
- 両手指の振戦、結膜の充血、落ち着きのなさを認めた。
- 数日前より急に不眠となりイライラ感も強い。
- 詳しく問診したところ、当科初診3日前から主治医の処方薬は処方切れとなっていたため、オピオイド(ヒドロモルフォン塩酸塩)の突然の中止による退薬症状と診断し、少量のヒドロモルフォン塩酸塩と降圧薬の内服を再開した。

東洋医学的所見

- 舌診：絳、舌苔少。
- 脈診：右弦数、左浮弦数。
- 腹診：腹力3/5、腹直筋攣急(+)、臍上悸(-)、胸脇苦満(+)、心下痞硬(+++)、右臍傍圧痛(+)、小腹不仁(+++)。

処方/臨床経過

- 心火亢盛と考えて黄連解毒湯7.5g/日(分3)を開始した。
- 2週後：不眠が残っていたため、柴胡加竜骨牡蛎湯7.5g/日(分3)に変方した。
- 10週後：症状が消失したため、柴胡加竜骨牡蛎湯も廃薬とした。



● **むずむず脚症候群を疑う足底感覚異常に
黄連解毒湯が著効した症例**

木村 むずむず脚症候群に黄連解毒湯が有効であった症例を矢嶋先生にご紹介いただきます。

矢嶋 症例は64歳の女性で、疾患名はむずむず脚症候群疑いです。既往の足底腱膜炎に対し五苓散5.0g/日と体外圧力波治療器による治療で足底の痛みが軽減していたところ、足底の感覚異常を認めるようになりました。しばらくは水毒による症状と考えていたため、五苓散の服用を継続していましたが、“足がポツポツする”とのことで、表面の熱を逃すという観点から清熱作用のある黄連解毒湯4.0g/日の投与を開始しました。

1ヵ月後の受診時に、違和感はあるがモゾモゾは改善し、4割ほど改善しているとのことで継続処方としました。さらに1ヵ月後には、モゾモゾはあるが毎日ではなくなり自覚しない時もあるとのことでした。5ヵ月目で症状はほぼ消失しており減量を検討中です(図7)。

本症例は「むずむず脚症候群」の診断基準のすべてを満たしていませんが、他の鑑別すべき疾患に当てはまらないことから疑い病名としました。増田らによると高脂血症などの代謝性疾患など原因となる基礎疾患による症候性むずむず脚症候群が本態性疾患との鑑別で挙げられています¹⁾。本症例は高脂血症の合併で内服治療を受けており、むずむず脚症候群を疑う足底感覚異常に基礎疾患や薬物療法などの原因で体内に蓄積した熱を取り除く目的で清熱作用を有する黄連解毒湯を投与し、著効がみられました。

木村 患者さんの足裏の熱感はどうでしたか。

矢嶋 ご本人は熱いという感覚があるとおっしゃっていましたが、触るとそれほど熱いという感じはなく、自覚的な熱感でした。

● **黄連解毒湯の症例について**

木村 シンポジストの先生方からご紹介いただいた黄連解毒湯の症例から、現代の口訣を導き出したいと思います。いずれの症例も効果発現までの期間が比較的短かったように思います(図8：次頁参照)。

皮膚疾患の症例では、黄連解毒湯によって皮膚症状だけでなく、精神症状の改善もみられま

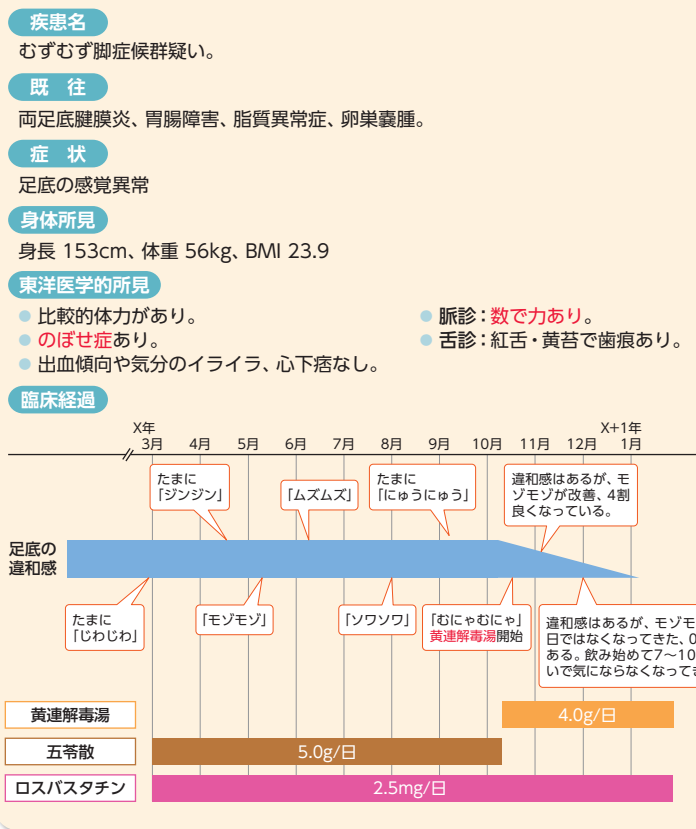
した。『漢方診療医典』では「本方は陽実証の薬方で皆消炎の剤を以て成り立ち、充血を去り精神の不安を除く効がある」と記されています。二宮文乃先生は、「清熱剤は単独で用いて奏効するが、症状によっては加方するほうがよい」と述べられており、その状態に応じて清熱薬を1/2~1/3量を加えると解説されています。

舌・咽頭・鼻の症例では、心下痞鞭や心下痞がみられました。『漢方診療医典』では「諸熱性病の経過中に用いて、日数を経過した残余余熱を解する」「脈は沈で力があり、心下部が痞えて抵抗がある」と記されています。

上半身の熱感だけでなく手指・足の症例については、主訴の症状に他覚的熱感を伴いませんが、熱証の随伴症状や体質傾向がありました。長沢道寿は『医方口訣集』で、「三焦の実火を瀉す」と述べています(図9：次頁参照)。

黄連解毒湯の構成生薬はすべて苦・寒であり、4つの生薬で三焦の実熱実火を除く方剤です。ご紹介いただいた症例の主訴は、前半の6症例は上半身に、後半の2症例は手・足でした。他覚所見については、上半身には熱感がありま

図7 むずむず脚症候群を疑う足底感覚異常に黄連解毒湯が著効した症例 (64歳 女性)



第二部

したが、手足には必ずしも熱感がない症例もありました。ただ、主訴に熱感がないものでも、イライラ、不眠、粘膜の充血やのぼせ、黄苔といった実熱実火の所見がありました。したがって、実熱実火を伴う上半身の症状・所見が多いのは当然ですが、主訴の症状に他覚的熱感を伴わない場合でも、熱証が随伴症状や体質として現れる場合に黄連解毒湯

湯が有効な症例があるのではないかと考えています(図8)。

なお、黄連解毒湯は山梔子含有の製剤ですので、長期投与(多くは5年以上)による腸間膜静脈硬化症(MP)に関する注意喚起がなされています。間欠的に投与していると発症していないとの報告があるので、適時・適量投与が重要です。

図8 黄連解毒湯の症例について

	芝木先生	金先生		松本先生	柿添先生		池田先生	矢嶋先生
	44歳 男性 アトピー性皮膚炎 顔面紅潮	28歳 女性 炎症性 ケロイド	20歳 女性 顔面痤瘡	67歳 女性 舌痛	45歳 男性 コロナ感染症 咽頭炎・咽頭潰瘍	58歳 男性 花粉症	73歳 男性 オピオイド中止後 退薬症状	64歳 女性 むずむず脚 症候群
体格 BMI	22.2	23.8	20.1	25.6	中肉中背	22.8	26.4	23.9
自覚 症状	顔のほてり・体痒み 痒みでイライラ 口濁なし	赤みに伴う 不快感	顔が熱く・痒い	舌痛 口腔内違和感 のぼせ・不眠 イライラ・耳鳴	咽頭痛	鼻閉 顔の痒み	手指振戦(熱感なし) イライラ 不眠	のぼせ 足底異常感覚 足底の熱感(±)
他覚 所見	顔面紅潮 体幹・四肢紅斑 皮膚やや乾燥	胸部ケロイドの 発赤	顔面紅潮 顔面腫脹 (月経後)	やや赤ら顔 皮膚の乾燥	顔面紅潮 咽頭全体発赤 鼻粘膜発赤腫脹	顔面紅潮 鼻周囲発赤腫脹 眼球結膜発赤 鼻粘膜発赤腫脹	手指振戦(熱感なし) 結膜の充血 高血圧	足底の熱感なし
脈診 舌診 腹診	浮数やや強 淡紅色・微白苔 4/5	弦 舌尖紅・薄黄 -	弦 舌尖紅・黄膩苔 -	浮数 紅色・黄苔 中等度・心下痞鞭	浮 黄白苔・辺縁紅 心下痞	浮 発赤・薄黄苔 心下痞鞭なし	右弦数 左浮弦数 絳舌 舌苔少 3/5 心下痞鞭	数力あり 紅舌・黄苔 -
効果まで の期間	1ヵ月	服用直後より発赤 改善傾向、3ヵ月で 炎症所見消失	十味敗毒湯と併用 2週間	1~2ヵ月	局所の炎症 数日~1週間以内	2日	2週間	7~10日
実熱 実火	顔面紅潮・ほてり 体の痒み イライラ	胸部の発赤	顔面紅潮 熱感・痒み 黄膩苔	舌痛のぼせ 顔面紅潮 舌紅色	咽頭炎 顔面紅潮	顔面紅潮 粘膜発赤 黄膩苔	結膜の充血 イライラ 不眠	のぼせ 黄苔

「実熱実火」

実熱実火を伴う上半身の症状・所見が多いが主訴の症状に他覚的熱感を伴わず 熱証が随伴症状や体質として現れる場合もある。

図9 黄連解毒湯の応用

〈皮膚〉

- アトピー性皮膚炎、顔面紅潮・全身の痒み (44歳 男性)
温まると痒い 冷やすと痒みが楽だが眠れなくなる
- 炎症性ケロイド、胸部の発赤 (28歳 女性)
- 顔面痤瘡、顔面紅潮・痒み (20歳 女性) 十味敗毒湯併用
→ 大塚敬節、矢数道明、清水藤太郎「漢方診療医典」
「本方は陽実証の薬方で皆消炎の劑を以て成り立ち、充血を去り精神の不安を除く効がある」

〈舌・咽頭・鼻〉

- 舌痛 (67歳 女性) 心下痞鞭
- 咽頭炎・咽頭潰瘍 (45歳 男性) 心下痞
- 鼻粘膜発赤 (67歳 女性)
→ 「漢方診療医典」
「諸熱性病の経過中に用いて、日数を経過した残余熱を解する」
「脈は沈で力があり、心下部が痞えて抵抗がある」

黄連解毒湯 (黄連 黄芩 黄柏 山梔子)

- 二宮文乃「アトピー性皮膚炎の漢方診療マニュアル」
「清熱劑は単独で用いて奏効するが、症状によっては加方する方がよい」
「清熱劑を1/2~1/3量加方する」
例：荊芥連翹湯7.5g+黄連解毒湯2.5~5g、十全大補湯7.5g+黄連解毒湯2.5g
- 長沢道寿「医方口訣集」「三焦の実火を瀉す」

〈手指・足〉

- オピオイド中止後退薬症状 (手指振戦、イライラなど) 73歳 男性
- むずむず脚症候群 (のぼせ、紅舌・黄苔) 64歳 女性
→ 主訴の症状に他覚的熱感を伴わず、熱証の随伴症状や体質あり

黄連解毒湯の構成生薬：全て苦・寒
(主な帰経)

- 黄芩 肺 大腸 小腸 脾 胆
- 黄連 心 胃 肝 胆 大腸
- 黄柏 腎 膀胱
- 山梔子 心 肺 三焦 (cf) 心中懊憹

六君子湯の口訣を考える

木村 六君子湯は、気虚の基本処方である四君子湯と痰飲・水毒の基本処方である二陳湯を合わせた処方です。効能・効果は、「胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐」です。臨床応用では、機能性ディスペプシア（FD）や胃食道逆流症、抗がん剤による副作用等が挙げられており、胃もたれや食欲不振などの消化器症状の改善に広く使用される補脾剤です。

原典の『世医得効方』では、「四君子湯 脾胃調わず 飲食思わざるを治す（中略）又方 陳皮半夏を加え六君子湯と名づく」と記されているように、方名のみで条文はありません。

『医学正伝』では、「六君子湯 痰 気虚を挟みて いつ（おくび・げっぷ）を発するを治す」と記されています。『万病回春』の補益門に詳しく記載されており、胃腸が虚弱で、食欲不振があり、慢性下痢、胸やけ、早期膨満感による消化不良、呑酸などの症状に有効であることが記されています。

図10 六君子湯

構成生薬

人参、朮、茯苓、半夏、陳皮、大棗、甘草、生姜
=四君子湯（気虚の基本処方）+二陳湯（痰飲・水毒の基本処方）

効能・効果

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

薬理効果

グレリン分泌促進による食欲改善作用など。

臨床応用

機能性ディスペプシア（FD）、胃食道逆流症、抗がん剤による副作用（食欲不振や嘔気など）。

胃もたれや食欲不振などの消化器症状の改善に広く使用される補脾剤

原典：危亦林『世医得効方』

「四君子湯 脾胃調わず 飲食思わざるを治す（中略）一方橘紅を加え異功散と名づく。又方 陳皮半夏を加え六君子湯と名づく」（方名のみで条文なし）

『医学正伝』

「六君子湯 痰 気虚を挟みて いつ（おくび・げっぷ）を発するを治す」

『万病回春』補益門 六君子湯

「治 脾胃虚弱 飲食少思 或 久患瘧痢 若 覺内熱 或 飲食難化 作酸 乃 属 虚火」
脾胃虚弱 飲食思うこと少なく 或いは久しく瘧痢を患い 若しくは内熱を覺え 或いは 飲食化し難く 酸をなし 虚火に属するを治す」

脾胃虚弱 飲食思うこと少なく（食欲不振） 久しく瘧痢（慢性下痢） 内熱（胸やけ） 飲食化し難く（早期膨満感による消化不良） 酸をなし（呑酸） など

六君子湯の薬理作用については、胃排出改善作用、食道クリアランス改善作用、胃貯留能改善作用やグレリンに対する作用などが幅広く報告されています（図10）。

● 地図状舌に六君子湯が有効であった症例

木村 地図状舌に六君子湯を使用された経験について、芝木先生にご紹介いただきます。

芝木 症例は77歳の女性で、主訴は舌の色むらが気になる、口の中が乾く、です（図11）。

X-1年10月頃から舌の色むらが出現し、口が乾くようになりました。他院皮膚科や内科の治療では症状は改善しませんでした。X年8月に当院初診、地図状舌と診断し、全身倦怠感の訴えもあったため補中益気湯を処方しました。

全身倦怠感が改善し、地図状舌もやや改善傾向でしたが、X年12月に胃の調子が悪いとの訴えと、食欲不振と地図状舌の悪化傾向があったため証を再考し、六君子湯エキス満量（分3）の処方を開始しました。

X+1年1月には「胃の調子がよい」「舌も気にならない」と表情がよく、同年3月には体重が2kg増えたと喜ばれていました。以後は、六君子湯を満量～2/3量の内服を継続し、X+2年5月に1ヵ月分を処方して廃薬としました。

図11 地図状舌に六君子湯が有効であった症例（77歳 女性）

主訴

舌の色むらが気になる。口の中が乾く。

現病歴

- X-1年10月頃から舌の色むらが出現し、口が乾くようになった。他院皮膚科や内科で処方されたポラプレジック、ビタミン剤などの内服では改善しなかった。
- X年8月：当院初診。地図状舌と診断し、全身倦怠感も訴えていたため補中益気湯を処方した。
- X年12月：胃の調子が悪いと訴え、食欲不振、地図状舌が悪化傾向のため証を再考した。

所見/東洋医学的所見

- 身長 152cm、体重 41kg、BMI 17.7
- 舌の表面に糸状乳頭が萎縮した不整形、地図状の淡紅色紅斑とその辺縁に白色の舌苔を認める。
- 小柄でやせ型。顔色は色白。声が小さい。
- 舌診：淡紅色、微白苔。歯痕あり。舌下静脈怒張なし。
- 脈診：沈、弱。
- 腹診：腹力は軟弱。心下振水音と軽度の心下痞鞭を認める。
- 自覚症状：寒がり、疲れやすい、寝つきが悪い、舌が荒れやすい、胃がつかえる感じがする、食欲がない。

処方/臨床経過

- 六君子湯エキス満量（分3）の処方を開始した。
- X+1年1月：胃の調子がよい、舌も気にならない。表情がよい。
- X+1年3月：体重が2kg増えた。
- 以後、六君子湯を満量（分3）～2/3量（分2）で内服継続。
- X+2年5月：六君子湯を1ヵ月分処方し廃薬とした。

第二部

地図状舌は、舌の角化異常で、舌の表面に白色で落屑性変化を伴う地図状と表現される局面を呈します。西洋医学的には、一般的に原因不明で有効な治療法のない疾患です。東洋医学的には脾虚・気虚と診断し、補中益気湯、六君子湯、半夏瀉心湯などが用いられ、有効であることも少なくありません。

木村 補中益気湯で倦怠感は改善しましたが、食欲不振や地図状舌が悪化したということでした。この点について、どのような要因が考えられますか。

芝木 初診が8月で、暑さによる全身倦怠感の訴えが中心でしたので気虚と判断して補中益気湯を処方しました。最初は効果があったのですが、脾胃が弱っている場合には当帰や柴胡が配合されている補中益気湯では強すぎてしまう可能性があります。症状が脾虚を主体としている場合には六君子湯が、全身症状が強い場合には補中益気湯が適していると考えます。

●六君子湯が有効であった例

木村 がん患者さんを診る機会が多い池田先生は、六君子湯をどのように活用されているかを教えてください。

池田 六君子湯を使う機会は非常に多くあります。終末期の患者さんはもちろんですが、お薬を飲むことができなくなってくるような患者さんも多いので、できるだけ早い時期から六君子湯の処方を開始すると良いと思います。一方で、全身倦怠感など全身症状の強い患者さんには補中益気湯が適していると思います。

木村 整形外科領域で矢嶋先生は六君子湯をどのように活用されていますか。

矢嶋 鎮痛剤による吐き気、嘔吐、便秘などの副作用が起こらないように六君子湯を使用することがあります。また、六君子湯は、慢性疼痛による不安や痛みによる食欲低下の改善にも効果的な印象があります。

木村 金先生は若い患者さんの食欲不振に六君子湯を用いられるということですが、使用経験を教えてください。

金 当院には食欲不振やそれに伴う不登校の若い患者さんも多く受診されます。そのような患者さんに六君子湯を投与することで、食欲不振

の改善だけでなく、精神症状も改善し、登校できるようになったという症例を経験しています(図12)。

図12 六君子湯が有効であった例

当院には、10歳代や20歳代といった若年女性のメンタル不調の患者さんも多く受診されています。その中でも10歳代(中学生や高校生)女子の食欲不振・倦怠感や不安感があり、学校に通うことが困難だという患者さんが受診されたときに食欲不振(脾虚)の改善を目的として六君子湯を投与することがあります。六君子湯の投与後には、食欲不振の改善だけでなく不安感などの精神症状の改善を認め、不登校が改善した症例を経験しています。

【六君子湯に含まれる主な生薬の薬理】

人参：食欲改善作用、抗疲労作用、抗うつ作用
白朮：胃排出低下の改善作用、抗うつ作用
陳皮：グレリン分泌促進作用、抗不安作用
半夏：抑うつ症状・神経症状の改善作用

六君子湯には精神面にも働きかける生薬も含まれているので、食欲不振だけでなく、メンタル不調にも効果を示すと考えています。

図13 高齢者の歩行能力低下・食欲低下に対し、六君子湯が有効であった症例(89歳 女性)

主訴

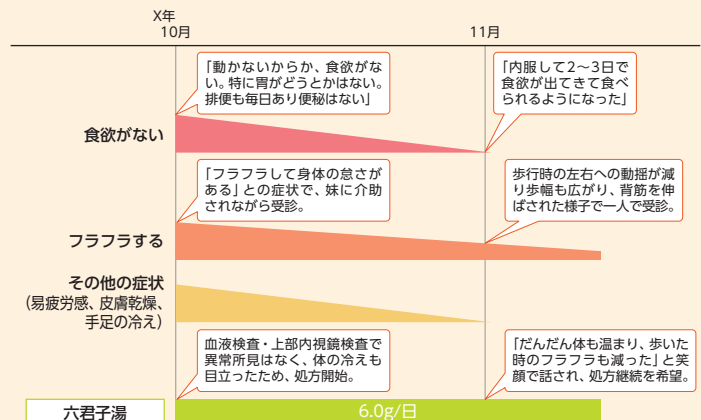
食欲がない・フラフラする。

所見/東洋医学的所見

- 身長 152.2cm、体重 55.7kg
- 脈診：沈。
- 易疲労感、歩行不安定、皮膚乾燥、手足の冷え。
- 舌診：暗赤色、白苔(+)。
- 腹診：腹力弱、軽度心下痞硬(+)。

処方/治療経過

- X年10月：「動かないからか食欲がない。特に胃がどうかはわからない。排便も毎日あり便秘はない。フラフラして身体の怠さがある」との症状で、妹に介助されながら受診した。血液検査・上部内視鏡検査にて異常所見はなく、体の冷えも目立ったため、六君子湯エキス細粒6.0g/日を処方した。
- X年11月(1ヵ月後)：歩行時の左右への動揺が減り、歩幅も広がり、背筋を伸ばされた様子で1人で受診。「内服して2~3日で食欲が出てきて食べられるようになった」「だんだん体も温まり、歩いた時のフラフラも減った」と笑顔で話され、処方継続を希望された。



● 高齢者の歩行能力低下・食欲低下に対し、
六君子湯が有効であった症例

木村 六君子湯は消化器症状だけでなく、高齢者のフレイルなどにも活用できます。松本先生に使用経験をご紹介いただきます。

松本 症例は89歳の女性で、主訴は食欲がない・フラフラする、です(図13)。

X年10月に、妹に介助されながら受診されました。食欲がなく、手足が冷えて疲れやすいなどの症状とともに、「歩行が不安定で一人での外出が怖い」と話されていました。血液検査・上部内視鏡検査にて異常所見はなく、体の冷えも目立ったため、六君子湯6.0g/日を処方しました。

X年11月に、歩行時の左右への動揺が減り、歩幅も広がり、背筋が伸びて一人で受診されました。六君子湯の服用で食欲、不安が改善し、元気が出てきたということで一人で受診されました。「内服して2~3日で食欲が出てきて食べられるようになった」「だんだん体も温まり、歩いた時のフラフラも減った」と笑顔で話され、処方継続を希望されました。

六君子湯は、加齢に伴う様々な精神・身体機能の低下に

有効であると考えます。

木村 先生には第1部のご講演で、人参養栄湯によって高齢者のフレイル状態を改善された症例をご紹介いただきましたが、人参養栄湯と六君子湯との鑑別について教えてください。

松本 フレイルの予防・治療に人参養栄湯を使用する機会は非常に多くありますが、本症例は消化器症状が目立っていたので、六君子湯を選んで処方しました。

● 慢性的な後鼻漏と咽喉頭異常感・嚔声に六君子湯が奏効した症例

木村 後鼻漏と咽喉頭異常感・嚔声に六君子湯が有効であった症例について、柿添先生にご紹介いただきます。

柿添 症例は78歳の女性で、主訴は後鼻漏、咽喉頭異常感、嚔声、食欲不振です(図14)。

2年以上前から後鼻漏、喉のつまり感、食欲低下があり、声も出しにくくなったとの訴えでX年10月に当院を受診されました。前年に他院を受診し、カルボシステインが処方されましたが、胃もたれのため自己中止しました。

耳鼻咽喉科的診断は、咽喉頭酸逆流症(LPRD)・慢性鼻

図14 慢性的な後鼻漏と咽喉頭異常感・嚔声に六君子湯が奏効した症例(78歳 女性)

主訴

後鼻漏、咽喉頭異常感、嚔声、食欲不振。

現病歴

- X年10月：2年以上前から後鼻漏、喉のつまり感、食欲低下あり、声も出しにくくなり当院を受診。
- 前年に他院を受診しカルボシステインを処方されたが、胃もたれのため自己中止していた。

既往歴

- 慢性関節リウマチ、骨粗鬆症、高脂血症、逆流性食道炎にて他院で内服治療中。

身体所見

- 身長 154cm、体重 45kg、体温 35.6℃、血圧 104/75mmHg、脈拍 65回/分

耳鼻咽喉科的所見

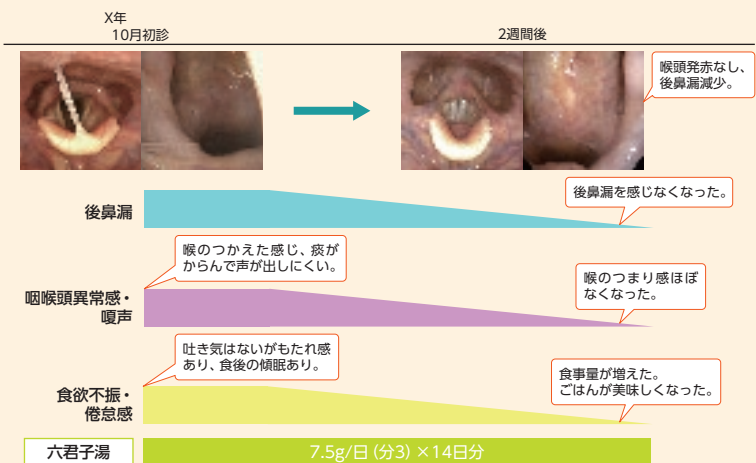
- 鼻粘膜腫脹軽度、粘膜やや蒼白、画像検査で副鼻腔炎なし、鼻汁中好酸球(-)、上咽頭から咽頭へ透明な後鼻漏あり、咽喉頭腫瘍性病変なし、軽度咽喉頭全体粘膜発赤、喉頭に粘稠な痰の付着、喉頭披裂部~梨状陥凹粘膜軽度発赤。

東洋医学的所見

- 視診：やせ型、元気がない。
- 訴え：倦怠感あり、胃の痞えで多く食べられない、吐き気はないがもたれ感あり、食後の傾眠あり、喉のつかえた感じ、痰がからんで声が出しにくい。
- 腹診：腹部軟、胃内停水。
- 舌診：淡白舌、やや湿潤、白苔。
- 脈診：沈弱。

治療/臨床経過

- 耳鼻咽喉科的診断：症状・喉頭所見・GERD既往から咽喉頭酸逆流症(LPRD)、慢性鼻炎。
- 東洋医学的診断：寒証・脾胃気虚・痰飲。
→ 六君子湯を選択(補気・化痰・理気)。



第二部

炎であり、東洋医学的には寒証・脾胃気虚・痰飲と診断し、六君子湯7.5g/日(分3)14日分を処方しました。

六君子湯の服用開始2週間後の再診時に後鼻漏や咽喉頭異常感、嘔声、食欲不振や倦怠感などの消失、後鼻漏の減少、喉のつまり感もなくなり、食事量が増えて「ごはんが美味しくなった」と表情も明るくなりました。局所所見については、咽喉頭粘膜の発赤・腫脹も改善し、後鼻漏の減少も認めています。

以前に、LPRDに対する六君子湯の効果について検討しましたが、対象16例中12例(75%)が中高年以上の女性で、全例がgrade M以下のNERDであり、改善率は87%でした。LPRDの面からも、以前から六君子湯の有効性に関する報告は多数ありますが、本症例も咽喉頭酸逆流が減少したことにより咽喉頭粘膜の炎症が改善し、症状の消失に至ったと考えられます。

脾虚気虚のある症例の後鼻漏・LPRDに対して六君子湯が有効であったことについては、水様性鼻汁を水毒の症状の一つと捉え、脾虚からの水毒であったため六君子湯が有効であったと考えられます。処方選択に際しては、小半夏加茯苓湯も考慮しました。この点については、田原らの報告²⁾との共通所見として胃内停水と水毒がありました。本症例は小半夏加茯苓湯の適応症状である悪心・嘔吐の胃気逆症状はなく、脾虚気虚の所見であったことから六君子湯が適していると判断しました。

●六君子湯の症例について

木村 シンポジストの先生方からご紹介いただいた六君子湯の症例から、現代の口訣を導き出したいと思います(図15)。

上部消化器症状では、地図状舌の患者さんで補中益気湯から六君子湯に変方した1ヵ月後には症状が改善して表情がよいという症例をご紹介いただき、またがん患者さんの食欲不振や鎮痛剤による吐き気、嘔吐、便秘などの副作用予防に六君子湯が有効であることをご紹介いただきました。和田東郭は『蕉窓方意解』で、「四君子湯に半夏陳皮を加えるものなり。按ずるに陳皮半夏を加えるものは胸中胃口の停飲を推し開くこと一層力あるものなり」と述べています。長沢道寿は『医方口訣集』四君子湯で気虚の四徴候(望：面色痿白、聞：言語輕微、問：四肢無力、切：脈來虚弱)に四君子湯の加減に二陳湯を合して六君子湯と名づくとして述べています。

六君子湯はフレイルにも有効であり、歩行能力低下、食欲不振、易疲労感を訴える89歳の女性が六君子湯の服用によって1ヵ月後には笑顔になったという症例をご紹介いただきました。この点について岡本一抱は『方意弁義』で、「脾胃を補い 元気を養い 湿を去り 痰を退く」と述べています。

消化器症状以外の症状として、後鼻漏と咽喉頭異常感、嘔声を訴える78歳の女性の症例も、六君子湯の服用で食欲低下、倦怠感、心下振水音が改善し、表情も明るくなったことをご紹介いただきました。岡本一抱は『方意弁義』で「此の方用ゆる元気の虚というは甚だ重しと知るべし。その故は湿は虚の強きに從いてあつまるが故なり」と述べています。虚が強いので湿が集まり、それが後鼻漏になったという解釈もできるのではないかと思います。

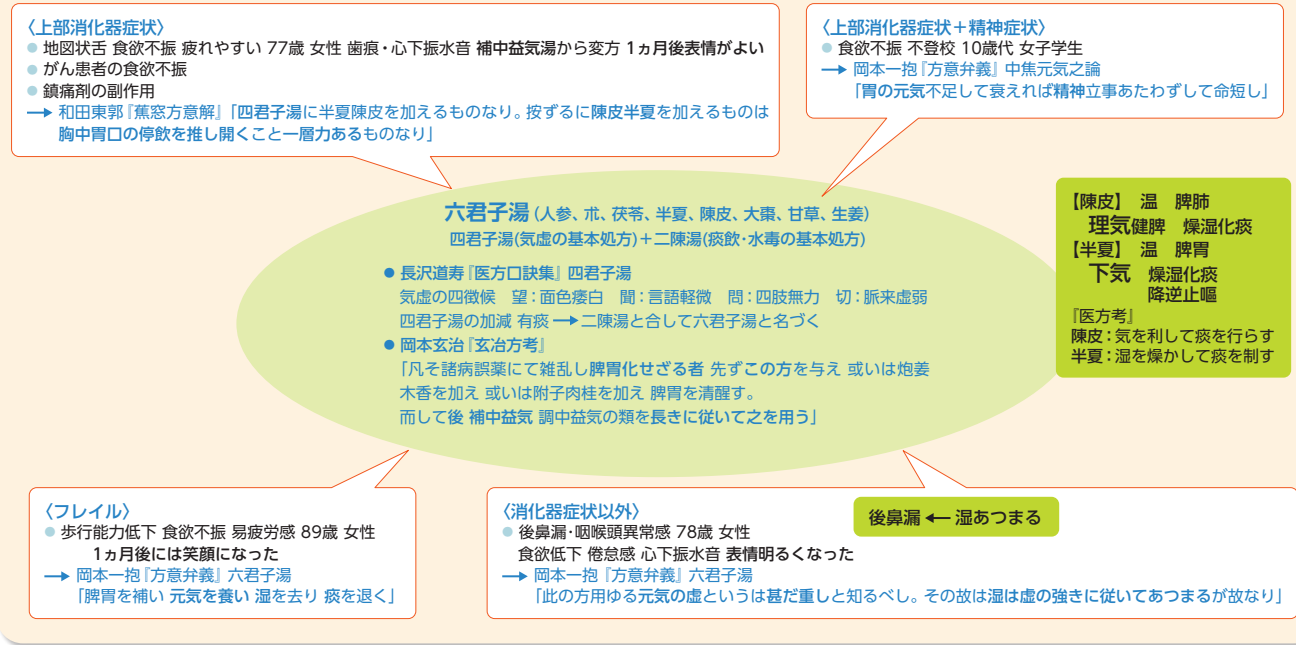
食欲不振で不登校の10歳代の女性にも有効であったことをご紹介いただきましたが、岡本一抱は『方意弁義』で「胃の元気不足して衰えれば精神立事あたわずして命短し」と述べています。

六君子湯には、陳皮と半夏が配合されており、陳皮の理気健脾作用と半夏の下気作用も併せ持つことからご紹介いただいた、どの症例も六君子湯の服用後は精神症状も改善し、明るくなられています(図16)。

図15 六君子湯の症例について

	芝木先生	金先生	松本先生	柿添先生
		77歳 女性 地図状舌	10代 女子学生 食欲不振・ 不登校	89歳 女性 フレイル
BMI 体格	17.7 小柄で痩せ型	—	24.0	19.0 痩せ型
消化器 症状	食欲がない 舌が荒れやすい 胃が痞える感じ	食欲不振	動かないから 食欲がない	食欲低下 胃の痞え 胃もたれ
消化器以外 の症状	疲れやすい 寝つきが悪い	倦怠感 不安感 不登校	易疲労感 ふらつき 歩行能力低下 皮膚の乾燥	後鼻漏・嘔声 咽喉頭異常感 倦怠感 食後の眠気
冷え	寒がり	—	手足	—
腹診	軟弱 心下振水音 軽度心下痞硬	—	弱い 軽度心下痞硬	軟 胃内停水
治療後の 精神状態	1ヵ月後 表情がよい	メンタル不調 の改善	1ヵ月後笑顔	表情明るく なった
その他	補中益気湯を 服用中に胃の 調子が悪く、 食欲不振 3ヵ月後に体重 2kg増加	食欲不振だけ でなくメンタル 不調にも効果 あり	2~3日後から 食欲↑ 1ヵ月後に歩行 改善	咽喉頭酸逆流 が減少

図16 六君子湯の応用



黄連解毒湯と六君子湯の現代の口訣

木村 黄連解毒湯と六君子湯の現代の口訣についてまとめます(図17)。

黄連解毒湯は実熱実火に用いる処方であり、実熱実火を伴う上半身の症状や所見が多い。しかし、主訴に他覚的熱感を伴わない場合でも、熱証が随伴症状や体質として現れる場合もある。のぼせ、顔面紅潮、発赤などの身体症状だけでなく、精神症状にも有効である。また、短期間で効果が現れる場合も多いので、適時・適量投与が大切である、ということが導き出されました。

六君子湯は四君子湯と二陳湯を合わせた処方であり、陳皮・半夏が追加されることで、“胸中胃口の停飲を推し開く”力が強くなっており、陳皮の理氣、半夏の氣を下す作用などで精神状態にも良い影響がある。そして、消化器症状が強い場合には六君子湯を、一方で疲労倦怠が強い場合は補中益氣湯と鑑別することができる。補脾によって消化器以外の症状も改善することができる、ということが導き出されました。

図17 黄連解毒湯と六君子湯の現代の口訣

- 黄連解毒湯**
- 実熱実火に用いる処方。
 - 実熱実火を伴う上半身の症状・所見が多い：顔面・舌・口腔内など。
 - 主訴に他覚的熱感を伴わず、熱証が随伴症状や体質として現れる場合もある。
 - 身体症状(のぼせ・顔面紅潮・発赤)と精神症状(イライラ・不眠)に使用。
 - 短期間で効果が現れる場合が多い(1~2週間) → 適時・適量投与が大切である。
- 六君子湯**
- 四君子湯(気虚の基本処方)+二陳湯(痰飲・水毒の基本処方)。
 - 陳皮・半夏の追加 → “胸中胃口の停飲を推し開く”
 - 陳皮の理氣、半夏の氣を下す作用などで精神状態にも影響。
 - 補脾と補氣の関係：消化器症状 > 疲労倦怠 → 六君子湯
(参考) 疲労倦怠 > 消化器症状 → 補中益氣湯
 - 補脾によって消化器以外の症状も改善。

【参考文献】
1) 増田由紀子 ほか：日本東洋心身医学研究. 17: 58-62, 2002
2) 田原英一 ほか：日東医誌 62: 718-721, 2011